



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)札幌米里物流施設計画	階数	3
建設地	札幌市白石区米里3条2丁目3-1~13	構造	S造
用途地域	準工業地域、22条指定	平均居住人員	140人
建物用途	事務所・工場	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
竣工年	2023年10月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	8,578㎡	評価の実施日	2022年8月1日
建築面積	5,699㎡	作成者	株式会社熊谷組一級建築事務所
延床面積	17,079㎡	確認日	2022年8月1日
		確認者	株式会社熊谷組一級建築事務所



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.9 ★★★★★★ A

S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 73%
③上記+②以外のオンサイト手法 73%
④上記+オフサイト手法 73%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm]= **0.53**

2-5 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

音環境: N.A., 温熱環境: N.A., 光・視環境: N.A., 空気質環境: N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.7

機能性: N.A., 耐用性・信頼性: 3.2, 対応性・更新性: 4.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 3.1

生物環境: 3.0, まちなみ・景観: 4.0, 地域性・アメニティ: 2.0

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.0

建物外皮の熱負荷: 5.0, 自然エネルギー: 3.0, 設備システム効率化: 5.0, 効率的運用: 2.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.9

水資源保護: 3.4, 非再生材料の使用削減: 4.1, 汚染物質回避: 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

地球温暖化への配慮: 4.0, 地域環境への配慮: 3.0, 周辺環境への配慮: 3.1

3 設計上の配慮事項

<p>総合 札幌市に新築される物流倉庫である。断熱性の高い材料の採用と高効率な設備機器の導入、節水型器具の採用等により、環境負荷の低減に配慮した建物である。</p>	<p>A 省エネルギー 高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。</p>	-
<p>B 省資源等 耐用年数の長い外装材・内装材を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。</p>	<p>C 緑化 敷地内緑化により、緑の量の確保に配慮している。</p>	<p>D 雪処理 -</p>

4 ほかの認証・評価制度の利用

(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	-	BELS認証	-	LEED認証	-
上記以外の認証・評価制度の利用					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016 (ver.1.4)
 (仮称)札幌米屋物流施設計画

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								3.3
Q1 室内環境								
1 音環境				-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル				-	-	-	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-
2 温熱環境				-	-	-	-	-
2.1 室温制御				-	-	-	-	-
1 室温				-	-	-	-	-
2 外皮性能	省エネ			-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				-	-	-	-	-
2.3 空調方式				-	-	-	-	-
3 光・視環境				-	-	-	-	-
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-
1 昼光率				-	-	-	-	-
2 方位別開口				-	-	-	-	-
3 昼光利用設備	省エネ			-	-	-	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-
1 昼光制御	省エネ			-	-	-	-	-
2 映り込み対策				-	-	-	-	-
3.3 照度				-	-	-	-	-
3.4 照明制御				-	-	-	-	-
4 空気質環境				-	-	-	-	-
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				-	-	-	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-
1 換気量				-	-	-	-	-
2 自然換気性能				-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				-	-	-	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				-	-	-	-	-

Q2 サービス性能				0.43	-	-	3.7
1 機能性				-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-
1	広さ・収納性			-	-	-	-
2	高度情報通信設備対応			-	-	-	-
3	バリアフリー計画			-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-
1	広さ感・景観 (天井高)			-	-	-	-
2	リフレッシュスペース			-	-	-	-
3	内装計画			-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-
1	維持管理に配慮した設計			-	-	-	-
2	維持管理用機能の確保			-	-	-	-
2 耐用性・信頼性				3.2	0.50	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.8	0.30	-	-
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	耐用年数の長い外装仕上げ材を使用	5.0	0.20	-	-
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	耐用年数の長い内装仕上げ材を使用	5.0	0.10	-	-
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源		3.0	0.10	-	-
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用	4.0	0.20	-	-
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源		3.0	0.20	-	-
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-
1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備			2.0	0.20	-	-
3	電気設備			3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備			3.0	0.20	-	-

3 対応性・更新性			4.2	0.50	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		階高:3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率:0.1未満	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		設計床荷重:4500N/㎡以上	5.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		構造部材だけではなく、仕上げ材を痛めることなく修繕更新が可能	5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出	緑化		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化	まちなみに配慮した景観計画としている	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雷処理		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.8
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BPI _m :0.48	5.0	0.01	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEI _m] = 0.53 -	5.0	0.62	-	-	5.0
4 効率的運用			2.0	0.25	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ			-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		給水器具の過半に節水機能のあるものを採用している	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.1	0.60	-	-	4.1
2.1 材料使用量の削減	省資源	F325以上の鋼材、BCP、機械式継手等の採用	5.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	断熱材、ビニル系床材、ボード	5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	LGS工法、OAフロアの採用	5.0	0.22	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			3.9	0.20	-	-	3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法に該当する有害物質を含まない材料を採用	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源	GWP値の低い断熱材の採用	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒	省資源		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	省資源	高効率な設備機器の採用によるCO2の削減	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止	省資源	燃焼機器の設置は無い	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 悪化 雪処理		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		駐輪・駐車台数を確保し車両出入時の混雑を避けた計画	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			-	-	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	1.00	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	4.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	1.9	BEEランク	A
建物名称	(仮称)札幌米里物流施設計画				
建物用途	事務所,工場				
延床面積	17,079.2 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	<p>省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0</p> <p>雪処理</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★★☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★☆☆☆☆	

3. 重点項目のCASBEEスコア							
A 省エネルギー (最高点 20.0 最低点 6)				合計		16.1点 / 20.0点	
Q1 温熱環境	スコア	0.0	/0.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	0.3	/0.3
Q1 光・視環境	スコア	0.0	/0.0	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.5	/2.5
				LR1 設備システムの高効率化	スコア	12.3	/12.3
				LR1 効率的運用	スコア	2.0	/4.9
B 省資源等 (最高点 27.2 最低点 8.6)				合計		19.3点 / 27.2点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	2.2	/2.6	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	7.4	/9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.7	/4.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.5	/1.9
				LR3 地球温暖化への配慮	スコア	4.0	/5.0
				LR3 地域環境への配慮	スコア	2.5	/4.4
C 緑化 (最高点 26.6 最低点 5.3)				合計		16.9点 / 26.6点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	5.1	/8.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0	/2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	9.1	/11.3				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.7	/4.3				
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)				合計		0.0点 / 3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0	/1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	0.0	/2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数